指導事例集ｐ．９７

児童に見られるつまずき

　比較量が基準量より小さい場合に立式することができない

つまずき解消に向けた指導のポイント

　数量関係を図に表したものをもとに、整数倍の場合と小数倍の場合を比べて考えさせることで、１寄り小さい小数倍についても、基準量を１として考えることに気付かせる

１　学年・単元名　　第４学年　小数倍（数量関係領域）

２　単元目標

倍の意味を思い出し、図を操作しながら小数倍のイメージをつかんだり、もとにするものをはっきりさせたりすることで、わる数とわられる数をはっきりさせる。

３　単元の内容

・「何倍」が「いくつ分」と同義であること

**・「○は□の何倍か」と問われた時の立式**

・線分図を操作し、整数倍でないもの、１倍（１つ分）に満たないものがあることを確認する。

４　本時の目標

・小数でも何倍かを表すことができることを理解する。

・もとにする量が何かを考え、正しく立式し答えを求めることができる。

参考：板書

５　本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 児童の活動 | 指導上の留意点**太字：つまずきに対する手立て** |
| 導入展開まとめ | １　問題文を読み、課題をつかむ。ア　赤は白の何倍ですか。２　めあてをたてる。テープの長さが白のテープの何倍になるかを考えよう。３ 自分の考えを発表し、話し合う。問題文を読み、課題をつかむ。イ　青は白の何倍ですか。自分の考えを発表し、話し合う。問題文を読み、課題をつかむ。ウ　黄は白の何倍ですか。自分の考えを発表し、話し合う。参考：児童のノート①②４　みんなで話し合う。考えた式の理由を説明する。５　本時の学習から分かったことをまとめる。小数倍を表すゲームをする。・宿題が1.5倍。・小遣いが2.5倍。６　適用問題をする。赤色のテープは黄色のテープの何倍ですか。また、青色のテープは赤色のテープの何倍ですか。７ 本時をふり返る。 | ・**テープ図を提示することによって、視覚的に小数倍の量感をつかむことができるようにする。**・赤と白のどちらがもとにする量になるのか考えさせ、白がもとにする量（基準）になることをおさえる。**・白がもとにする量（基準）になることが分からない児童には、テープを操作し、赤の中に白がいくつ分入るのかを確かめさせる。**・手の幅を使い、赤は白の２倍を表現する。・**テープを操作し、青の中に白がいくつ分入るのかを確かめさせ、青は白の２つ分より少し小さいことに気付かせる。**・手の幅を使い、青は白の1.6倍を表現する。・テープ図を提示し、倍の関係を表す線分図は掲示せず、自分で書き加えるようにする。・8÷10か10÷8どちらの式になるかを話し合い、どちらをもとにして考えたかテープを操作しながら説明させる。**・テープを操作し、黄の中に白がいくつ分入るのかを確かめさせ、黄は白の１つ分に満たないことに気付かせる。****・１より大きい小数倍、１より小さい小数倍があることに気付くとともに、その量感が分かるようにする。**・まとめを生かして適用問題に取り組む。・本時の学びで気づかせる。・前時までの自分と比べて、本時の学習で考え方が変わったことに目を向けさせる。 |